



成蹊大学学生ボランティア本部 Uni. 市民とともに地域のニーズに応える 学内最大規模のボランティア団体



福島県伊達市で町おこしのお手伝いで畑を一から耕している様子

武蔵野市に拠点を置く成蹊大学に「成蹊大学学生ボランティア本部 Uni.」が誕生したのは2009年のこと。学部や学年、学生・教職員の境界を超えたつながりから生まれたこの団体は、2011年3月の東日本大震災以降、全国的にボランティア活動に対する機運が高まりを見せる中、さまざまな分野へと活動の幅を広げていきました。当初、十数名でスタートした団体も、現在は500名からなる学内最大の規模にまで発展。環境・教育・国際・地域・福祉の5つのチームに分かれ、さらにチームの枠を超えたプロジェクトによる多様なボランティア活動を展開しています。

「たとえば教育の分野では、『北町親子ひろば』で未就学児のお子さんのお世話をしたり、地域の分野ではハロウィンなど地域のお祭りやイベントに参加して市民の方たちをサポートしています。福祉の分野では、市内の介護施設に向いてコーヒールを入れながら入居者の方とお話をするなど、部員の関心事や得意分野に応じて多様な活動を行うのが特徴です。」とUni.代表の下之園隼人さん。入部のきっかけはそれぞれ異なるもの、人と関わることが好きな部員が多いそうです。武蔵野市民の印象は、「年配の方も含めて皆さん優しいですが、ただ優しいだけでなく、注意すべき点はしっかり指摘してくださるのでとても勉強になりますし、部員のスキルアップにもつながるのでありがたいですね」とのこと。

今年度はコロナの影響でさまざまなお祭りやイベントが中止になる中、オンラインによるイベント開催など、苦境を逆手にとる活動にも着手しています。「いま休校などで子どもたちの学力低下が問題視されていますが、年齢の近い僕たち大学生が彼らの勉強を見てあげることも可能です。地域に生まれた新たなニーズに対しても積極的に関わっていきたく、そのためにも、武蔵野市には学生をもっと『使って』ほしいと思います」と下之園さん。学生もまた地域の貴重な人材資源です。市や市民とのより深く強い連携が、地域の課題解決につながるかもしれません。

成蹊大学学生ボランティア本部 Uni.

武蔵野市に拠点を置く成蹊大学で2009年に発足した学生ボランティア団体。5つの分野ごとのチームに分かれて活動するほか、東北の復興支援や絵本の読み聞かせなど、チームが連携したプロジェクトでの活動も行う。部員数は約500名。成蹊大学では2014年には、学生の自発的な活動を総合的にサポートするために、学内にボランティア支援センターも設立された。
<https://uniseikei.wixsite.com/unicom>



Uni. 代表の下之園隼人さん（下段真ん中）とメンバーの皆さん



お祭りにてダーツの模擬店で子どもと触れ合っている様子